

～4 J C ゴルフ・サッカー大会 Q & A～

Q、4 J C とはどのような関係でしょうか？

2012年に（一社）伊賀青年会議所、（一社）多治見青年会議所、（一社）藤枝青年会議所、（一社）刈谷青年会議所の4つの青年会議所で4 J C 災害ネットワーク協定を結んでおり、有機的な連携によりお互いに助け合いの精神をもち、災害が発声した際に、迅速な支援・対応・連携ができるようこれまで友情を育んでまいりました。

Q、この事業は何を目的にしているのでしょうか？

ゴルフやサッカー、懇親会を通じて4 J C の友情を深め、今後も変わらない協力関係を築くために行います。1年ごとの持ち回りで主管する青年会議所が決まっており、今年度は多治見が主管となって他 L O M の皆様をおもてなしします。

Q、メンバーに御願することは？

遠方から多治見に来てくださる皆様をしっかりとおもてなしし、よりよい関係を作りたいと思っております。4月21日、22日の2日間、ぜひおもてなしの心をもち、多くのメンバーに参加いただきたいと思っております。



総務・渉外委員会 委員長
三和 義幸

会員意識高揚事業を終えて（3月6日開催）

『会員意識高揚事業』として、公益社団法人日本青年会議所 2015年度副会頭 森本勝也先輩よりご講演をいただきました。

森本先輩からは、在籍中の経験や J C への想いをお話いただきました。困難を実現した森本先輩からの、「本気でやっていたら外野の声に負けない」「周りの顔色を窺うのは本気でやっていない証拠」というお言葉に、私なりに「怯むことなく行動すること」を理解しました。

森本先輩からは、自身のあり方に関するお話もあり、J A Y C E E としての自覚を高く持とうと気持ちを引き締めました。

会員開発委員会 委員
鈴木 亜紀子



「とうかい号」LOMオリエンテーションのご報告

3月20日多治見市産業文化センターにて「とうかい号 LOM オリエンテーション」を開催いたしました。開催内容はとうかい号の目的や魅力の説明、過去の乗船者から乗船して学んだことを教えて頂くという内容でした。多治見市からの今年の乗船者は6名です、今年は20代の方が多く不安な表情も見せていましたが、乗船への目的を聞いてみるととても頼もしく、乗船後のプライベートや職場での活躍が楽しみに感じました。



会員開発委員会 副委員長
早川 義記



新入会員紹介



名前:片岡 新之助 **所属:**会員開発委員会 **勤務:**(有) 平和観光

趣味:旅行・釣り・ドライブ **特技:**テニス・語学

休日の過ごし方: 休日は、基本起床が遅いので起きてからごろごろしています。天気がいいと散歩に出たり、ドライブに出かけたりします。昼はひとりで過ごす方が好きなので自分の時間を過ごします。夜は友達を誘って飲みに行く事が多いです。

意気込み: 多治見 JC に入会した事が今後自分自身の成長になにか繋がればと思っております。僕よりも年上で社会経験のある会員の方々が JC には多いので、そういう方々との交流を通して多くを学ばせて頂ければ幸いです。



名前:加藤 大輔 **所属:**会員開発委員会 **勤務:**(株) 多治見トレーディング

趣味:ゴルフ **特技:**特にありません

休日の過ごし方: 家族サービスとゴルフと仕事を繰り返しているといつの間にか休日が終わっています。

意気込み: やると決めたらとことんやります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI クリード

The Creed of Junior Chamber International
We Believe;
That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality;
and That service to humanity is the best work of life.